

教科	算数	単元名	のこりはいくつ ちがいはいくつ
----	----	-----	-----------------

## 本時のねらい

さし絵やブロックの操作を見て、減法の意味をとらえる。  
Google クラスルームを活用し、タブレットに送られたプリントで引き算の練習をする。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

教員機から児童のタブレット端末に送る問題を教科書のQRコードから読み取った問題等に取り組むことで足し算引き算の習熟を図る。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ 大型モニター ・ Google クラスルーム ・ 日文デジタルコンテンツ

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のQRコードを読みとり、復習として、たし算カードに取り組む</li> <li>・文章問題を読む 「ふうせんを6個持っていました。3つとんでいきました。のこりはいくつでしょう」</li> <li>・今日のめあてを確認する</li> </ul>	1つずつ数が増えるたし算や、増える数がバラバラのたし算など自分に合った計算カードに取り組むことができるように支援する。
展開 (25分)	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて『ブロックをつかってかんがえよう』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題のとよりの絵をノートに書く</li> <li>・ブロックでたしかめる</li> <li>・式、答えを書く</li> </ul>	<p>個々に考えた絵をタブレットで写真を撮り、大型モニターに映し出すことで、意見を全体化する。</p> <p>大型モニターで映し、教員の見本を見ながら児童が同じようにブロックを操作することで、どのように操作すればいいのか、視覚的な支援をおこなう。</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員からクラスルームに送った課題を解く</li> <li>・課題を提出する</li> <li>・タブレットで計算カードに取り組む</li> </ul>	クラスルームに送った課題を受け取る→直接答えを書き込む→保存→提出することで、次の課題に取り組む時間ができ、個々の習熟をさらに図ることができる。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：大型モニターで数が減る様子を映し、児童が同じように操作する場面

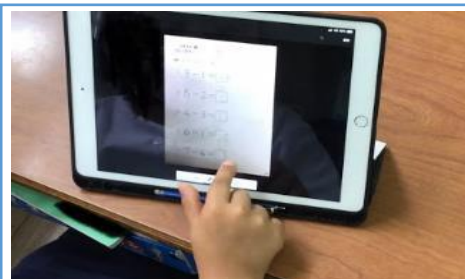


写真2：クラスルームに送った課題（ひざざんの練習プリント）の答えを書き込んでいる場面



写真3：課題を提出し終わった後、教科書のQRコードを読み取り、計算カードで、習熟を図っている場面

## 児童生徒の反応や変容

- ・大型モニターを使い、教員の手元を大きく映すことで同じ操作を児童全員ができた。
- ・数が減るといふことを、イメージした絵とブロック操作と数字（式）をつなげて考えることができた。
- ・タブレット上での計算カードは自分の理解度に合わせて難易度を変えることができるため、児童が何度も繰り返し挑戦でき、たし算や引き算の練習を自分から行うことができる。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・習熟を図るための学習プリントをタブレットに送ることで、紙のプリントではやり直しを苦手とする児童も、抵抗なく取り組むことができた。
- ・算数を得意とする児童には計算カードにどんどん取り組ませ、つまづいている児童には教員が個別に対応することができる
- ・ブロックなどの具体物を使って数の概念を獲得するときは、教員の手元を大きく映し出し、児童が自分のものと比べられることが理解を図るうえでとても重要であると感じた。